

[010]九州大学産学連携センター年報 : 10

<https://doi.org/10.15017/15510>

出版情報 : 九州大学産学連携センター年報. 10, 2004-11-30. 九州大学産学連携センター
バージョン :
権利関係 :



九州大学の産学連携戦略拠点として

九州大学産学連携センター
センター長 小寺山 亘



平成16年度からの国立大学法人化に象徴されるように、大学は今、大きな変革期を迎えています。大学人には「教育」と「研究」への一層の貢献に加え、法人の経営にたいする寄与も要請される時代となりつつあります。このような状況のもと、社会における大学の存在意義を明確なものとし、そのプレゼンスを高め、大学への反射的効果をもたらすものとして、「社会貢献」が大学の重要な機能として日々衆目を集めています。

平成6年に設立された当センターは、本学の社会貢献活動の一環をなす産学連携、それも先端科学技術分野におけるプロジェクト研究の促進や共同研究コーディネート、企業等からの技術相談への対応支援等を端緒とします。以来10年間に漸次の改組拡充を経て、平成15年10月1日の九州大学と九州芸術工科大学との統合に伴い、“産学連携センター”としての新たな一歩を踏み出しました。そして、リエゾン・デザイン総合・プロジェクト三部門の有機的連携のもと、組織・領域横断的な産学官連携システムの構築と実効化、技術の人間化のための感性融合創造研究、基盤技術の実用化に資する研究開発、という大役を果たすべく、日夜精進しています。また、リエゾン部門及びデザイン総合部門は本学知的財産本部の主要な一翼をも担い、社会ニーズを適切な研究者へ選択的に届け、大学シーズ情報を広く社会に発信し、かつ両者をマッチングさせることにより、新たな知的財産ないしソーシャルキャピタルの創出に努めているところです。

経営感覚が求められる時代とて、大学人が短期的な社会的要請に翻弄されて東奔西走する事態、あるいは先人の蓄積に負うところ大きい既存の知識・経験に依存して事を処せんとする事態は、学術を健全な発展の途から遠ざけるものとなりかねません。当センターは、教育と研究が国家百年の大計であり大学人の不易の本務であることを深く認識しつつ、時代の要請に真摯に対峙し、大学の社会貢献機能の拡充発展に邁進してまいります。さらに大学人に対しても、実社会への課題意識を鋭敏ならしめ研究・教育の活性化をもたらす機縁を提供するものとして、ニーズとシーズのコーディネートの段階を経て、比喩的にはニーズとニーズの弁証法的止揚を目指し、弛まぬ努力を続けていく所存です。

各位にはなお一層のご支援ご鞭撻を謹んでお願い申し上げます。